



(平成30年度災害訓練)



独立行政法人 国立病院機構

# 村山医療センターニュース

## 理念

患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

## 基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重します。
- 安全で優しいチーム医療を提供します。
- 倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。
- 地域医療連携の促進を図ります。
- 骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。
- 職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

第63号  
2018.11

発行責任者 院長 朝妻 孝仁

## ご挨拶

### 手外科センター長 加藤 直樹

平成30年10月より村山医療センターに手外科センター長として赴任させて頂きました。これまで私は、平成6年に防衛医科大学を卒業して以来、防衛医科大学病院、埼玉医科大学病院（毛呂、日高、川越）および東松山にある埼玉手外科研究所で、整形外科の中でも特に手外科、末梢神経外科の診療と研究に従事して参りました。



手外科では一般に肘関節から指先までの骨・関節・神経などに生じた怪我や病気を診療いたします。具体的には、手や肘の骨折や脱臼、屈筋腱や伸筋腱の損傷、神経障害（手根管症候群、肘部管症候群など）、変形性関節症、腫瘍、腱鞘炎などの治療を行っています。また、顕微鏡を用いて細い血管や神経を修復したり、失った組織を再建したりする手術（マイクロサージェリー）を行うのも特徴の1つです。

私たちは朝起きてから夜眠るまで洗顔、食事など全ての活動で手を使っており、手は私たちの生活にとって非常に重要な役割をもっています。普段は特に意識しないで使っていますが、ひとたび手に問題が生じると当たり前でできていたことができなくなり、突然毎日の生活レベルが大きく低下してしまいます。そのため少しでも快適な日常生活が送れるよう、医療を通じて問題を解決していく事が私たち手外科医の仕事と考えています。

これまで約1年間、非常勤医師として週1日午前中、当センターで手外科の専門外来を行って参りましたが、そこで手の痺れや痛みなどを長い間我慢し、症状がかなり悪化してしまっている患者さんを多く診察させて頂きました。確かに加齢性のもので、ある程度の疼痛は許容しないといけない場合もありますが、治療することで痺れや痛みが劇的に改善する可能性もあります。少しでも快適に自立した生活を送るためにも諦めないで一度手外科専門外来を受診されることをお勧めします。

また、これから手外科センターでは、手外科専門施設として肘や手の骨折や脱臼などについても積極的に受け入れ、より良い医療を提供することで地域の皆さんに貢献出来ればと考えています。手をついて転倒してから痛い、腫れている、動かないなどの症状があれば放置せずに早めに診察を受けて頂ければと思います。毎週月曜日と水曜日の午前中に手外科外来を行っていますが、このような突然の怪我などに対しては可能な限り救急患者として対応させて頂きたいと思いますので、まずはご相談頂ければと思います。



# 出張講座について

地域医療連携係長 小山 由紀子

私は、地域医療連携室に勤務している看護師です。地域医療連携室は、名前の通り地域と病院の橋渡しを行う部署ですが、仕事内容は様々です。そのうちの 하나가、平成26年度から地域の皆さまのもとへ出向き、職員が持つ専門知識や技術などを紹介する出張講座です。講座に参加された方からは「講座で教えてもらったスクワット、コマースルの時にするわ。」と意欲的な声を頂いております。また、当院に通院している方にも参加して頂いており、「人工膝関節の手術後調子が良い。筋肉をつけて丈夫にしたいので、体操を続けます。」と、嬉しい感想を聞けることが多いです。依頼が入ると、とても楽しみにになります。

さて、私達は年齢を重ねると、健康寿命を阻害するメタボ（メタボリック症候群）やロコモ（ロコモティブ症候群）と向き合うことを余儀なくされます。

今年度は、武蔵村山市南部地域包括支援センターと東大和市の体操教室で『ロコモティブシンドローム』が開催されました。これは、私達の体を支える運動器（骨・関節・筋肉等）についての健康講座です。参加者は、60～80才の方々で、みなさん健康意識がとても高いです。講座では、医師は質問攻めにあい、さらにスクワットは私達より体幹がぶれていない！と驚いておりました。今後は、参加者の期待にもっと応えていきたい、講座の内容を充実させたいという思いから『ロコモティブシンドローム』のシリーズ化を計画しております。骨粗鬆症の検査、骨・筋肉に良い食事と効果的な運動等の情報を提供していきたいと考えております。

他にも、「高齢者のスキントラブルを予防しよう！」や「感染症予防の基本」の講座が開催されております。特に、「感染症予防の基本」講座での手洗いチェックは好評です。特殊な薬品を手擦り込ませた後に、石鹼を使用して普段通りの手洗いを実践します。手洗い後、実際にブラックライトを当ててみると手洗いでは落とさきれなかった薬品が反応して光り、十分な手洗いが出来ていないことがわかります。手洗いチェックは成人のみならず小さいお子さん・学生さんにもお勧めです。

昨今、スマホやインターネットで調べれば何でもわかる時代ですが、直接医師・看護師に聞くこと、体験することで納得・安心に繋がると思います。どうぞ、出張講座をご利用ください。



## 「市民公開講座」を開催しました

庶務係長

村山医療センターでは、主に武蔵村山市民の方々を対象とした「市民公開講座」を定期的に開催しています。

今回で21回目の開催となり、武蔵村山市並びに武蔵村山市医師会の後援で、10月6日（土）に武蔵村山市民総合センターをお借りして「股関節まわりの健康トラブル」という演題で実施しましたが、50名を超える市民の方が参加されました。

朝妻院長による開会の挨拶の後、吉原関節外科部長から「成人の股関節の病気」、次に竹光外来診療部長から「背骨からくる股の痛みについて」、さらに、大石手術部長・外科部長から「脚の付け根に痛みや違和感ふくらみはないですか？」の講演が行われました。各講演後には、講演内容だけではなく、日頃疑問に思っていることも含めた質疑応答の時間を設けました。最後にリハビリテーション科山本運動療法主任から「腰から脚にかけての体操教室」と題して、会場にいらっしゃった市民の方と椅子を使ってできる体操をその場で行いました。

今後も武蔵村山市民の健康に役立つ公開講座を開催してまいります。来年度は、新病棟内の大きな会議室で開催の予定ですので、是非さらに多くの方に参加していただきたいと切に願っております。

最後に今回の公開講座に協力いただきました職員の皆さん、ポスター掲示など協力いただいた関係者の方々、武蔵村山市並びに武蔵村山市医師会にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



(講演風景)



(朝妻院長による開会挨拶)

# 新棟工事進捗状況について

業 務 班 長

夏の猛暑や台風等による影響で工事の遅延が懸念されておりましたが、工事は順調に進捗しております。既に外壁は完成しており、現在は内装工事を主として壁や天井の仕上げや配線、配管工事等が行われて、病棟の雰囲気が大分感じられるようになって来ております。

年明けには概ね完成予定で、行政機関等の各検査後、平成31年3月には6階建303床の新病棟の完成引渡しを受ける予定です。

10月には2回にわたり、病院一部職員が新病棟工事現場見学を行いました。老朽化等でご不便をおかけしている現在の病棟から、広く機能性の高い新病棟での患者さんの受入に向け、職員もモチベーションを高めております。

皆様に新病棟をお披露目できるのは、もう少し先になってしまいますが、ぜひお楽しみにしてくださいね。

平成31年度には、既存病棟の解体工事を計画しております。

引き続き工事期間中は騒音や振動、工事車両の通行等で患者さんをはじめ、ご来院の皆様方や地域の皆様方に大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、工事の進捗状況の写真を外来廊下に掲示しておりますので、ぜひご覧下さい。





# 臨床検査科紹介



## 臨床検査技師長 長田 裕次

臨床検査科は男性6名、女性4名から成り、平均年齢が50歳とベテラン域の技師達が揃っています。臨床検査は大きく分けて血液(血清)や尿等を扱う検体検査と心電図や超音波検査等の患者さん自身に検査機器を装着して行う生理検査があります。

検体検査はさらに生化学検査、免疫検査、血液検査、輸血検査、細菌検査、一般検査、病理検査に細分化され、検査機器も充

実しており、最新の自動分析装置を幾つも備えています。また、臨床検査技術向上のため日々の努力を重ね、各検査部門の認定資格を取得することや最新の検査技術情報を得るために各種の学会や研修会にも積極的に参加しています。検査業務以外で院内では感染対策チーム(ICT)や栄養サポートチーム(NST)へ検査データの分析等をふまえ、参画しています。現在今年の12月より施行される医療法改正による臨床検査検体部門の精度保証に向けて、その資料作成におわれているところです。法的に検査試薬管理や検査機器管理、検査室環境管理等の精度管理基準を設けたものとなっています。精度管理においては当検査室で毎年参加実施されている日本医師会精度管理調査でここ何年もの間、高得点を取っています。毎年99.5点(100点満点中)以上の得点で他施設よりかなり良い成績を取めている実績があり、検査データについては自信を持って報告しています。受診者の皆様へより早く正確な検査データを提供できるように日々励んでいます。



超音波診断装置



生化学自動分析装置

## 平成30年度 骨・運動器疾患看護研修会を開催しました

教育担当看護師長 宮川 幸子

今年度も骨・運動器疾患看護研修会を10月3.4.5日の3日間にわたり、実施いたしました。この研修会は平成25年度より毎年実施している研修会で、他の国立病院機構の病院や、近隣の施設の看護師を対象として実施しています。当院の強みである脊椎や関節疾患の知識、手術に関する知識、看護、リハビリテーション、地域連携など骨・運動器に関する基礎から最新の情報を折り交ぜた研修内容で構成されています。毎年、全国から40～50名程度の研修生を募っていますが、昨年度と今年度は病棟の建て替え等の諸事情により規模を縮小して実施しました。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、医療社会事業専門員など様々な職種の講師による講義のほか、手術室の見学、実際の手術機械の体験、車椅子での座圧測定や脊椎や頸部の固定に使用するコルセットの装着など様々な体験も行いました。「患者さんの状況や気持ちを理解して看護に活かせる。」「多職種から学ぶことで看護だけではない視点を得られた。」「最新の知識や術式を学べた。」「多職種連携の大切さがわかった。」などの感想が聞かれ、充実した研修となったようでした。

高齢社会となっている現在、治療の必要の有無に関わらず、骨・運動器に関して何らかの不都合を感じている方がたくさんいると言われていています。少しの不都合を感じながらもご家庭で生活が続けられるように、また治療が必要となり患者さんとなった方たちが、治療した後も安心して地域で生活ができるように支援できる看護師の育成が大切であると考えています。

村山医療センターでは、骨・運動器疾患に特化した病院の強みを十分に生かして、これからも骨・運動器疾患看護、リハビリテーション看護にたけた看護師の育成に取り組んでいきたいと思っております。



## 腰椎椎間板ヘルニアに対する最先端治療

本年8月から発売になった新しい腰椎椎間板ヘルニア治療薬について、当院の松林先生に聞きました。

質問：腰椎椎間板ヘルニアに対する新しい治療法が始まったと聞きました。どんな治療法なのでしょう。



松林：ヘルニアの発生した椎間板に新しい薬を注射し、ヘルニアを小さくするものです。腰椎椎間板ヘルニア治療剤（製品名：ヘルニコア椎間板注用 1.25 単位、一般名：コンドリナーゼ）として本年5月22日に薬価基準収載され8月に科研製薬株式会社から発売となりました。村山医療センターでは十分に慎重に検討を重ねた結果、最終的に9月の薬事委員会で承認され臨床使用が開始されました。

質問：どんな患者さんに適応があるのでしょうか。

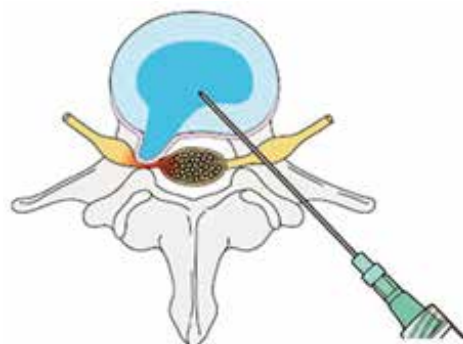


松林：一般的に椎間板ヘルニアは安静、内服などの保存的治療で軽快する症例が多く見受けられます。数日～数週間、痛み止めなどの薬を飲んで治ってしまうものが多いのです。それでも治らないヘルニアがまず対象になります。椎間板ヘルニアとは椎間板の中心にある髄核という部分が飛び出し、後縦靭帯を押し出して神経を圧迫している状態です。さらに後縦靭帯を破って外に飛び出してしまうヘルニアもあります。ヘルニコアは髄核の保水能を低下させ、椎間板内圧を低下させることによりヘルニアの臨床症状を改善させるものですから後縦靭帯を破っていないものに適応があります。



質問：すべてのヘルニアに適応になるわけではないのですね。どこで区別されるのでしょうか。

松林：MRI でかなりくわしく評価できます。必須の検査と思います。



質問：もしヘルニコアの治療を希望した場合どうすればいいのでしょうか。

松林：まず本当に適応があるのか脊椎外科医にしっかり相談することです。ヘルニアのなかには急速に麻痺症状が進行するものもあり、数時間以内に手術治療の適応になるものもありますから、専門医に診察を受けることが重要です。麻痺が急速進行性の場合、ヘルニコアの適応はありません。

質問：他に気をつけることは。

松林：20 歳以下と高齢者の場合は慎重に検討する必要があります。ヘルニコアの注射後に椎間板の高さが減弱することも報告されていますので、腰椎に不安定性のある方や、変形のある方もよく検討する必要があります。大事なのはしっかりとした診断です。ヘルニコアの注入がそもそも必要なのか、効果ありそうなのか否か、薬でよくなってしまいうヘルニアもありますし、早急に手術にふみきったほうがいい場合もあるということです。



# 外 来 診 療 担 当 医 師

■ 一般外来 ※受付時間 (初診:8時30分～11時まで) 平成30年11月1日現在  
再診:8時30分～12時まで

診療科等		月	火	水	木	金	備考	
内科		片寄	岡田	片寄	岡田	岡田		
外科		大石	飯野	松岡	飯野	大石		
整形外科	再診	脊椎	○朝妻 ○竹光 小柳津	◎谷戸 ◎藤吉 加藤(貴) 松林	○○金子 山根	○○許斐 矢内	小見山 松川 辻	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	清水		大木	吉原	笹崎	股・膝関節・下肢
		手	加藤(直)		加藤(直)			手指・上肢
		一般						
	初診	交替制						
リハビリテーション科		富岡	植村	竹内		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…竹内 第2金…植村 第3金…富岡	
歯科		宮本	宮本	宮本	宮本	宮本	予約制	

## ■ 専門外来 (全て予約のみ)

診療科等	月	火	水	木	金	備考
内科リウマチ				片寄 (13:00~)		予約制
側弯			金子 (13:30-15時)	金子 (第2-4週13:30-16時)		予約制
装具外来 (リハビリ科)	植村/倉片/竹内 (13:00~)					予約制
禁煙外来		岡田 (午前11:30~)		岡田 (午前11:30~)	岡田 (午前11:30~)	予約制

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

## 診療について

診療日 月曜日～金曜日(祝日及び年末年始は除く)  
診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分  
再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は(整形外科) 随時受付けております。

専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。

毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1

TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210

URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>